

『キャリアの赤本ドリル』補正と訂正のお願い

『キャリアの赤本ドリル』をご購入いただき、ありがとうございます。解説の表記に補充や訂正の必要があることが判明しましたので、お知らせいたします。謹んでお詫び申し上げますとともに、誠に恐縮ですが補充と訂正をお願いいたします

頁	箇所	内容
1 頁 問 1	Aの解説 について	<p>正：(変更有りませんが補足説明をします) 問1は、「資料の内容理解」に関する出題です。問題文が、厚生労働省「新しい時代の働き方に関する研究会報告書」(2023年10月)において示された労働市場の変化や働く人の意識の変化に関する次の記述のうち、適切なものはいくつかあるか。とあるように、報告書の認識(報告書の内容の理解度を確認する)を問う問題として作成しました。</p> <p>A. わが国では少子高齢化が進行しつつあるが、女性・高齢者の労働参加が進んだことから、近年減少してきた労働力人口・就業者数も増加傾向に転じている。 この問いへの解説として、 A. 適切なものであるとはいえない。わが国では少子高齢化が急速に進み、既に人口減少局面にあり、今後は15～64歳の現役世代の減少が更に進む見込みである。さらに、女性・高齢者の労働参加が進んだことから、近年増加してきた労働力人口・就業者数も2019年を転機に減少傾向に転じている。としています。</p> <p>この認識は、「報告書」の3頁に示されており、注記として、労働力人口は、2019年に6,912万人のところ2020年に6,902万人、就業者は2019年に6,750万人のところ、6,710万人となり、以後減少傾向が続いている。(出典：総務省「労働力調査(基本集計)長期時系列データ」とされています。</p> <p>「報告書」の公表が2023年10月とすると、労働力調査のデータは、2022年までのものになりますが、「基本集計」では、労働力人口は、2019年は6912万人であったのが2022年は6902万人に、就業者人口は2019年が6750万人だったのが2022年は6723万人に減少しています。なお、2023年は、労働力人口が6925万人、就業者人口6747万人となっています。</p>
119 頁 問 52	解説Bと C	<p>誤： B. 適切なものであるとはいえない。「講義法」は、学習者が受け身的になってしまうという弱点をもつ。この弱点を克服するためには、教師が一方向的に知識を伝えるだけでなく、学生に質問をすることで双方向性の授業に変容させたり、授業の節々で質問などをしながら学習者の反応をチェックするなどの工夫をすることで、学習者の興味や関心を高めることが必要になるとされる。 C. 適切なものである。「討議法」は、集団学習の形態のもとに、参加者である学習者自身が中心となって、学習者相互が意見を出し合うことにより、理解を深めさせ、教育目標を達成させようとする方法である。討議法には自由討論やディベートなどの方法があり、初等・中等教育段階よりも高等教育段階の方が容易であり、分野的には自然科学よりも社会科学・人文科学の領域における教育に有効であるとされる。</p>
		<p>正：(BとCを、反対にしてください) B: 適切なものである。「討議法」は、集団学習の形態のもとに、参加者である学習者自身が中心となって、学習者相互が意見を出し合うことにより、理解を深めさせ、教育目標を達成させようとする方法である。討議法には自由討論やディベートなどの方法があり、初等・中等教育段階よりも高等教育段階の方が容易であり、分野的には自然科学よりも社会科学・人文科学の領域における教育に有効であるとされる。 C: 適切なものであるとはいえない。「講義法」は、学習者が受け身的になってしまうという弱点をもつ。この弱点を克服するためには、教師が一方向的に知識を伝えるだけでなく、学生に質問をすることで双方向性の授業に変容させたり、授業の節々で質問などをしながら学習者の反応をチェックするなどの工夫をすることで、学習者の興味や関心を高めることが必要になるとされる。</p>
120 頁 問 52	正当の番号	<p>誤：正答 5. このように、適切なものはCとEの記述であり、5.が正答である。</p>
		<p>正：正答 4. このように、適切なものはBとEの記述であり、4.が正答である。</p>

なお、『キャリアの赤本ドリル』の情報は、今後とも当会のホームページなどでお知らせして参ります。